講義科目名称: 土木工学概論 CV1-B01-10 科目コード: 21390

英文科目名称: Introduction to Civil Engineering

議義におこなう。講義に関してレポートを作成し論理的な表現力を磨く。 (オムニバス方大、25回) キーワード:土木工学 ( オープード: 土木工学) 第9.1回 土木工学( 中澤 博志) ・ 土木工学における学問上の位置付けと、土木工学科カリキュラムにおける本講義の位置を説明する。 ・ 土木工学とはどのようなものかを、上木工学の各分野の概要を示して紹介する。 ・ キャント工学外の学びの物色を説明する。 ・ キャント工学外の学びの物色を説明する。 ・ キャント工学外の学びの物色を説明する。 ・ キャント工学の機要および、本学土工学科の学びの特色と卒業後の進路について理会・	開講期間		配当年	単位数	科目必選区分			
正本工学科教員  「土木工学への導入」として、土木工学科の複数の教員がそれぞれの専門分野についてのオムニバス講義  今専門分野の現状や特米に向けての課題等に関する説明を通して、上木工学に対する理解を探めることを とした講演である。現に、昨今の科学技術の進水に伴う土木工学分野の変化を急頭においた、土木技術者としての倫理につい  「業者とおえる」。議論に関してレポートを作成し論理的な表現力を整く。 現に、昨今の科学技術の進水に伴う土木工学分野の変化を急頭においた、土木技術者としての倫理につい  「業者となる」。 選続に関してレポートを作成し論理的な表現力を整く。  「本工学とはどのようなものかな、土木工学科カリキュフムにおける本講義の位流作。 ・ サイエ学における学問上の位置付けと、土木工学科カリキュフムにおける本講義の位流作。 ・ サイエ学とはどのようなものかな、土木工学の各分野の観要を示して紹介する。 ・ 学科不美技の連絡について紹介する。  「国徳」 土木工学を接近に対して紹介する。 ・ 学科不美なの連絡について紹介する。 ・ 学科不美な機の連絡について紹介する。 ・ 学科不養なの連絡について紹介する。 ・ 学科不養なの連絡について紹介する。 ・ 海球の概念を登出する。 ・ 海球の概念を発いする。 ・ 海球の概念を発して取り扱う活かれ、自然の対したったで、一 海球の構造とないまれて学のありようやその使命について解説する。 「国徳」 「日徳」 「日徳」 「日徳」 「日徳」 「日徳」 「日徳」 「日徳」 「日	1年前期		1	2	必修			
議義概要  「上木丁学への導入」として、土木丁学科の複数の数員がそれぞれの専門分野についてのオムニバス議義 を専門分野の現状や将来に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を係めることを とした議議である。 策観におこれが、講教に関してレポートを作成し論理的な表現力を増く。 サード・上木工学 (中澤 博志) ネーケード・上木工学 第1000 ネーケード・上木工学 第2010 スーケード・上木工学 第3010 スーケード・上木工学 第3010 スーケード・上木工学 第3010 スーケード・上木工学 第3010 スーケード・上木工学 第3010 スーケード・上本工学 第3010 スーケード・上本工学 第3010 スーケード・エス (中澤 博志) スーケード・エス (中澤 博本) スーケード・エス (中澤 博志) スーケード・エス (中澤 博志) スーケード・エス (中澤 博志) スーケード・エス (中澤 博志) スーケード・エス (中澤 明志) スーケード・エス (中澤 明志) スーケード・エス (中澤 明志) 、	担当教員		'	1				
議義観要  「十木工学への導入」として、土木工学科の複数の数員がそれぞれの専門分野についてのオムニバス講義 うる専門分野の現状や特殊に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を深めることをとれま議である。 更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい、 (オムニバスカ大/全16回) オーワード・土木工学 中学、大本工学 ・ 中学、土木工学 ・ 中書、神志の学問上の位置付けと、土木工学科カリキュラムにおける本講義の位置代	土木工学科教員	•						
議義観要  「十木工学への導入」として、土木工学科の複数の数員がそれぞれの専門分野についてのオムニバス講義 うる専門分野の現状や特殊に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を深めることをとれま議である。 更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい、 (オムニバスカ大/全16回) オーワード・土木工学 中学、大本工学 ・ 中学、土木工学 ・ 中書、神志の学問上の位置付けと、土木工学科カリキュラムにおける本講義の位置代								
う。門分野の現状や特来に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を深めることをとした講義である。 更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい講義もおこなう。講義に関してレポートを作成し論理的な表現力を磨く。 (イスムスカ大人を15回) キーソード・土木工学 (中澤 博志) ・土木工学(中澤 博志) ・土木工学(中澤 博志) ・土木工学とほどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・・ 生木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・・ 生木工学とはどのようなものかを、土木工学のの参与の概要を示して紹介する。・ な子・大工学のを選出について紹介する。 「日標] 土木工学ので観光とは、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の進路について理る。 (ALU) 第02回 流域の観点からみた土木工学 (松本 健作) ・流域の観念を説明する。・ 海水、素を乾、地下浸透、流出の毛鬼を概認したうえで、砂防・河川から海岸に至るまで減らなった。 (本として取り扱う活砂系の最多を解説する)・ 河川工学の格げる治水、利水および環度という河川整備の目的について理能する。 「日標」流域の概念を選出する。また流域的技術でみたときの土木工学について理解する。 「日標」流域の概念を選出する。また流域的技術でみたときの土木工学について理解する。 日本の国土は様々な地形に富み、地帯毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様ではしまり、電が社会会活を営む上で、地壁を知ることは重要な項目の一る。日本の国はは様々な地形に富み、地帯からな上で、地摩を知ることは重要な項目の一る。日本の国はは様々な地形に富み、地帯からな上で、地球の概念と述の利用形態も多様である。日本の国はは様々な地形に富み、地帯の成り立ちた上で、地域と学やの入りしたとして、土工学における地盤の使置づけま学が、他がは、生かりた、地域の作置づけま学が、地域と下学の基础として、土工作業をの関係についての基本を理解する。 地野の かいが成め、土工を開発して、社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (出口) (出口) (日標) かれて、身の回りの社会インフラのイメージと実際 (出口) (出口) (日標) が、カインフラのグ製や状況を理解する。 (ALQ) (	添付ファイル							
う。四分野の現状や特米に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を深めることをとした講義である。 要に、即今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた、土木技術者としての倫理につい 講義もおこたう、講義に関してレポートを作成し論理的な表現力を磨く。 オータード・土木工学 (中澤 博志) ・ 土木工学 (中澤 博志) ・ 土木工学の (中澤 博志) ・ 土木工学の (中澤 博志) ・ ・ 土木工学の (中澤 博志) ・ ・ 土木工学の (中澤 博志) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・								
う。門分野の現状や特来に向けての課題等に関する説明を通して、土木工学に対する理解を深めることをとした講義である。 更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい講義もおこなう。講義に関してレポートを作成し論理的な表現力を磨く。 (イスムスカ大人を15回) キーソード・土木工学 (中澤 博志) ・土木工学(中澤 博志) ・土木工学(中澤 博志) ・土木工学とほどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・・ 生木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・・ 生木工学とはどのようなものかを、土木工学のの参与の概要を示して紹介する。・ な子・大工学のを選出について紹介する。 「日標] 土木工学ので観光とは、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の進路について理る。 (ALU) 第02回 流域の観点からみた土木工学 (松本 健作) ・流域の観念を説明する。・ 海水、素を乾、地下浸透、流出の毛鬼を概認したうえで、砂防・河川から海岸に至るまで減らなった。 (本として取り扱う活砂系の最多を解説する)・ 河川工学の格げる治水、利水および環度という河川整備の目的について理能する。 「日標」流域の概念を選出する。また流域的技術でみたときの土木工学について理解する。 「日標」流域の概念を選出する。また流域的技術でみたときの土木工学について理解する。 日本の国土は様々な地形に富み、地帯毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様ではしまり、電が社会会活を営む上で、地壁を知ることは重要な項目の一る。日本の国はは様々な地形に富み、地帯からな上で、地摩を知ることは重要な項目の一る。日本の国はは様々な地形に富み、地帯からな上で、地球の概念と述の利用形態も多様である。日本の国はは様々な地形に富み、地帯の成り立ちた上で、地域と学やの入りしたとして、土工学における地盤の使置づけま学が、他がは、生かりた、地域の作置づけま学が、地域と下学の基础として、土工作業をの関係についての基本を理解する。 地野の かいが成め、土工を開発して、社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (出口) (出口) (日標) かれて、身の回りの社会インフラのイメージと実際 (出口) (出口) (日標) が、カインフラのグ製や状況を理解する。 (ALQ) (	<b>港</b>	「上十十八	学への道オール	↑ イン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の複数の数目がそれでれの声明八野にのし	アのオルーバフ港羊な行		
とした講義である。 更に、前今の科学技術の進歩に作う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい 講義もおこなう。講義に関してレポートを作成し論理的な表現力を磨く。 (オムエバスガス と15回) ネーワード・土木工学 第01回 土木工学 (中澤 博志) ・土木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・土木工学を漁頭する。・土木工学の連貫というなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。・土木工学の連路について紹介する。 ・土木工学を漁場路について紹介する。 「日間、土木工学の重要および、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の連路について理念。(ALQ)) 第02回 濃版的組点からみた土木工学 (松本 健作) ・流版の概念を説明する。・海体・赤発散、地下浸透、流出の各現象を解設したうえで、砂防・河川から海岸に至るまで、海川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解設する。・海川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解設する。・海川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解設する。・海川工学の場がな組までみたときの土木工学のありようやその使命について理解する。 「日標」 (ALQ) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち、(中澤 博志) 建設・学を予し報的次、また我なが社会生活を含む上で、地盤を知ることは重要な項目の一名。日本の国土は様々な地形に富み、地形伝におけの利活用の成り立ちに中の利用形態も多様ではそこで、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。・地震、1学の入り、カレとし、土工工学における地盤の位置づけを学ぶ、地盤、1学の入り、カレとし、土工工学における地盤の位置づけを学ぶ、地盤、1学の入り、カレとし、土工工学における地盤の位置が下での基礎を理解する。・地ボーダーの入り、カレとし、土土では会が多の大学を関係をであると、大に関連して、社会インフラの後割や状況を理解する。 (ALQ)、ALG) 第04回 社会インフラの後割や状況を理解する。 (ALQ)、ALG) 「日間」 社会インフラの後割や状況を理解する。 (ALQ) ALG) 「日間」 社会インフラのと対しな知识を理解する。 (ALQ) ALG) 「日間」 社会インフラの後割や状況を理解する。 (ALQ) ALG) 「日間」 社会インフラのを割や状況を理解する。 (ALQ) ALG) 「日間」 社会・インフラでおいる。 (ALQ) ALG) 「日間、新聞を取りまたれている。 (ALC) ALG) 「日間、新聞を関する。 (ALQ) ALG)(ALG)(ALG)(ALG)(ALG)(ALG)(ALG)(ALG)(	神我恢安	う。	· -					
更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた。土木技術者としての倫理につい (対ムエバス方式、全15回)  ホーワード:土木工学  第01回  土木工学 (中澤 博志) ・土木工学 (日本 一年) ・大本学土木工学科の学びの特色を発明する。 ・学科学業後の連路について理 (ALQ)  第02回  第02回  第02回  第02回  第02回  第02回  第02回  第02回  第03回  第03回  東京 (日本) ・通加工学の場所を表現・流土工学 (松本 健作) ・流域の概念を避難する。・通いにもよび環境といって呼続する。・通いにもの場所と浸透、流出の各鬼象を解説したうえで、砂防・河川から海岸に至るまで調味を一体として取り扱う流砂系の概念を解説する。・デールでいて解説する。・通いないないで解説する。・通いないないで解説する。・通いないないで解説する。・通いないないないで解説する。・通いないないないないで理解する。・通いないないないないないないないないないないないないないないないないないないな		各専門分類	野の現状や将来 きである	に向けての課題等	に関する説明を通して、土木工学に対する	理解を深めることを目的		
大・エ・大工学		更に、昨年	<ul><li>更に、昨今の科学技術の進歩に伴う土木工学分野の変化を念頭においた、土木技術者としての倫理について</li></ul>					
大工工学   大工工学   中澤   博志		講義もおい						
・土木工学における学問上の位置付けと、土木工学科カリキュラムにおける本講義の位置作説明する。 ・主木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。 ・本学士本工学科の学びの特色を説明する。 ・学科卒業後の進路について紹介する。 「目標」土木工学の概要および、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の進路について理(ALQ)) 第02回 満域的視点からみた土木工学 (松本 健作) ・流域の概念を説明する。 ・降水、蒸発性、地下浸透、流出の各現象を概説したうえで、砂防・河川から海岸に至るま領域を一体として取り扱う流砂系の概念を解説する。 ・河川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解説する。 ・河川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解説する。 ・河川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解説する。 「目標」 満域の概念を理解する。また法域的は点でみたととの土木工学について理解する (ALQ) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち、で土本工学について理解する。 ・日本の国土は様や地盤の成り立ち、地形にに都つ成り立ちや土地の利用形態も多様でおる。日本の国土は様や地盤の扱り立ち、地形にの市田内・物板や土地利用によってごる特徴的な地盤災害について解説する。 ・「日韓」学への入りりとして、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ、・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。 ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。 ・地形・都市形成・土地利用および逃避災・音の関係について理解する。 ・地形・都市形成・土地利用および逃避災・音の関係について理解する。 ・(ALQ) (ALQ) 第04回 計会インフラのよりに大きな大きの関係が置かれている状況を観測する。これに関連して、社会インフラは当まである。これに関連して、社会インフラは会社の大きの関係について理解する。 ・(ALQ) (ALQ) ・イループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。 ・上木構造物の接着管理に関する基本的な考え方について理解する。 ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。 ・上木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。		キーワー	ド: 土木工学					
・土木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。 ・土木工学とはどのようなものかを、土木工学の各分野の概要を示して紹介する。 ・学科卒業後の進路について理介する。 【目標】 土木工学の板要および、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の進路について理念。 (ALCO) 流域的視点からみた土木工学 (松本 健作) 流域の概念を説明する。 ・路水、素養散、地下浸透、流出の各現象を概談したうえで、砂防・河川から海岸に至るま領域を一体として取り扱う流砂系の概念を解談する「川整備の目的について解説する。・河域から視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する。・河域から視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する。・「山水学の掲げるが水、利水および環境という河川整備の目的について解説する。・河域的な視点でみたときの土木工学のありようとうの土木工学のありようとの土木工学のありようとかととの土木工学のありようとかととの土木工学のありようとまの土木工学のありようとをの土木工学について側離を知ることは重要な項目の一名。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ち・土地の利用形態も多様ではそこで、土の性等や地盤の成り立ち、地形ほよる土地の利活用の特徴や土地利用によって全る特徴的な地盤災害について解説する。 【目標】 ・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。 ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。 (ALCO) (ALCO) (ALCO) 社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際、(西田 孝弘) ・社会インフラのは単大規を書の関係について理解する。(ALCO) (ALCO)	授業計画	第01回						
・本学士木工学科の学びの特色を説明する。 ・学科卒業後の進路について紹介する。 ・学科卒業後の進路について紹介する。 ・ (ALQ)					の位直付けど、土木上字科ガリキュブムに	おける本講義の位直付けを		
・学科本業後の進路について紹介する。 【目標】 土木工学の概要および、本学土木工学科の学びの特色と卒業後の進路について理る。(ALO) 流域的視点からみた土木工学 (松本 健作) ・流域の視念を説明する。 ・						て紹介する.		
(ALQ) (流域的視点からみた土木工学 (松本 健作) :流域の概念を説明する. ・降水、蒸発飲、地下浸透、流出の各現象を概説したうえで、砂防・河川から海岸に至るま簡販を一体として取り扱う流砂系の概念を解説する. ・河川工学の掲げる沿水、利水および環境という河川整備の目的について解説する. ・流域的な視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する。 (流域的な視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する. (ALQ) (ALQ)			• 学科卒	業後の進路につい	て紹介する.	Marks and the second transfer		
(AL①) 流域的視点からみた土木工学 (松本 健作) ・流域の概念を説明する. ・降水、蒸発散、地下浸透、流出の各現象を概説したうえで、砂防・河川から海岸に至るま簡な一体として取り扱う流砂系の概念を解説する. ・河川工学の掲げる沿水、利水および環境という河川整備の目的について解説する. ・流域的な組点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する. ・流域的な組点でみたときの土木工学のありようやその使命について理解する。 (AL②)				土木工学の概要は	および、本学土木工学科の学びの特色と卒業	<b>を後の進路について理解す</b>		
・流域の概念を説明する。 ・ 流域の概念を設明する。 ・ 路域を一体として取り扱う流砂系の概念を解説したうえで、砂防・河川から海岸に至るま簡減を一体として取り扱う流砂系の概念を解説する。 ・ 河川工学の掲げる治水、利水よび環境という河川整備の目的について解説する。 ・ 河川工学の掲げる治水、利水よび環境という河川整備の目的について解説する。 【目標】流域の概念を理解する。また流域的視点でみたときの土木工学について理解する (ALCI) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち、七半の利用形態も多様でえる。日本の国土は様々な地形に富み、地形ほ店部・田の成り立ちや土地の利用形態も多様でえて、土の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって生態を変して、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。 「目標】 ・地盤工学へ基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。 ・地能工学へ基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについて理解する。 ・地形、都市形成、土地利用および地盤災害の関係について理解する。 ・地が、都市形成、土地利用および地盤災害の関係について理解する。 ・地会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際(西田 孝弘) ・社会インフラは人なの生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ情をかる重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(ALCI) 「目標】社会インフラの役割や状況を理解する。 ・各自調ペイきた内容をグループ内で計議し、まとめる。(ALCI) (国標) 社会インフラの役割や状況を理解する。・各自調ペインデーションやディベート等、寛見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。・・本情造物の発達とその歴史、土木構造物の法を理解して、これの発展の歴史、および、その発展のたった。「日標」がループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の進持管理についての基本的な考え方について理解する。(ALCI) (ALCI) (AL		44	(AL①)		No. (In It It II)			
・降水、蒸発散、地下浸透、流出の各現象を概認したうえで、砂防・河川から海岸に至るま 領域を一体として取り扱う流砂系の概念を解説する。 河川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解説する. ・流域的なで視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する. 【目標】 流域の概念を重解する。また流域的協点でみたときの土木工学について理解する (ALQ)) 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち (中澤 博志) 建設事業や地盤防災、また我々が社会生活を営む上で、地盤を知ることは重要な項目の一る。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様でなる。 大田を関金地鑑の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって生活・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ。 地盤工学への基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する. ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の場では一つ、近れのよりな地域である場合では、土の地質で地盤の成り立ちについての基礎を理解する. ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について軽解する. ・ ・ 本に、		第02回			学 (松本 健作)			
・河川工学の掲げる治水、利水および環境という河川整備の目的について解説する。・流域的な視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する。(ALQ) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち(中澤 博志) 建設事業や地盤防災。また我々が社会生活を営む上で、地盤を知ることは重要な項目の一名。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様できるで、土の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって名特徴的な地盤災害について解説する。  【目標】 ・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ。・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。・地光・初市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラーのイメージと実際(西田 孝弘)・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(ALQ)、AL(⑤)・グルーブに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(ALQ)、AL⑥)・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法をごいいて概説する。(ALQ)【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する。・各自調べてきた内容をグルーブカで計議し、まとめる。(ALQ)、AL⑥)・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(富永 知徳)・主要な土木構造物で変とせと構造設計について、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて課節を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。「目標】構造物の要全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(ALQ)・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の銀持管理に関する基本的な考え方について理解する。【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。			• 降水,	蒸発散,地下浸透	,流出の各現象を概説したうえで,砂防・	河川から海岸に至るまでの		
・流域的な視点でみたときの土木工学のありようやその使命について解説する。 【目標】流域の概念を理解する、また流域的視点でみたときの土木工学について理解する(ALQ)) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち(中澤 博志) 建設事業や地盤防災、また我々が社会生活を営む上で、地盤を知ることは重要な項目の一名。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様ではそこで、土の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって生る特徴的な地盤災害について解説する。 【目標】 ・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ、地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。地形・都市が成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。(ALQ)、有LQ) (ALQ) (A			領域を一位・河川工作	本として取り扱う 学の掲げる治水,	流砂糸の概念を解説する. 利水および環境という河川整備の目的につ	いて解説する.		
(AL①) 第03回 地盤工学を学ぶにあたって、地盤から見た都市の成り立ち(中澤 博志) 建設事業や地盤防災、また我々が社会生活を営む上で、地盤を知ることは重要な項目の一ろ。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様できる。大き機的な地盤災害について解説する。 【目標】 ・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ・地盤工学への入り口として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する・地形・初市が成・土地利用および地盤災害の関係について理解する・(AL①) (AL②) (AL②) (AL②) (AL②) (AL③) (AL②) (AL③) (AL②) (AL③) (AL②) (AL③) (AL③) (AL②) (AL③) (AL③) (AL②) (AL③) (AL②) (AL②) (AL③) (AL②) (AL③) (AL②) (AL③) (AL④) (AL⑥) (AL④) (AL⑥) (AL④) (AL⑥) (AL④) (AL⑥)			• 流域的	な視点でみたとき	の土木工学のありようやその使命について	解説する.		
建設事業や地盤防災、また我々が社会生活を営む上で、地盤を知ることは重要な頂目の一名。日本の国土は様々な地形に富み、地形による土地の利活用の特徴や土地利用形態も多様である。大きで、大の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって多る特徴的な地盤災害について解説する。「目標] ・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ・地盤工学へ多基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。(ALQ、AL②)・社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際(西田 孝弘)・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(ALQ)・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(ALQ)、AL③) 「目標】社会インフラの役割や状況を理解する。・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる。(ALQ)、AL⑤)・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(富永 知徳)・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。「目標】構造物の発達とと構造設計についての基本的な考え方について理解する。(ALQ) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(ALQ) 構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(ALQ) 構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(ALQ) 番様を中心とした土木構造物の変状事例についての基本的な考え方について理解する。(ALQ) 構造物の親状と維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(ALQ) ・				/ /   /     /	49句: また孤墺的悦点でみたときの工本」	L子に*ブバ・く 理解 タ る・		
る。日本の国土は様々な地形に富み、地形毎に都市の成り立ちや土地の利用形態も多様できるで、土の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって各特徴的な地盤災害について解説する。 ・地盤工学の基礎として、土水工学における地盤の位置づけを学ぶ・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。(ALQ) AL(3)		第03回						
そこで、土の性質や地盤の成り立ち、地形による土地の利活用の特徴や土地利用によって生る特徴的な地盤災害について解説する.  【目標】 ・地盤エ学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ. ・地盤、中の基礎をして、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する. ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する. (AL①, AL②) 第04回  社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (西田 孝弘) ・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②, AL③) 「目標】社会インフラの役割や状況を理解する。・各自調べてきた内容をグループ内で封護し、まとめる。(AL②, AL⑤)・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回  本構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(富永 知徳)・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について配頭を行う。 「目標】構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(AL①)  「目標】構造物の現状と維持管理に回っての基本的な考え方について理解する。(AL①)			建設事業ない 日本の	や地盤防災,また D国土は様々な地	技々か住会生店を宮む上で,地盤を知るこ 形に富み,地形毎に都市の成り立ちや土地	とは重要な項目の一つであるの利用形態も多様である.		
【目標】 ・地盤工学への入り口として、土木工学における地盤の位置づけを学ぶ、・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。 ・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。 (AL①、AL②) 第04回 社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (西田 孝弘) ・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②、AL⑤) ・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(富永 知徳)・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。(AL①)			そこで.	上の性質や地盤の	成り立ち、地形による土地の利活用の特徴	や土地利用によって生じ得		
<ul> <li>・地盤工学の基礎として、土の性質や地盤の成り立ちについての基礎を理解する。</li> <li>・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。(AL①, AL②)</li> <li>         社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (西田 孝弘)         ・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL②)         ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②, AL⑤)         (AL②, AL⑥)         【目標】社会インフラの役割や状況を理解する。</li></ul>			【目標】					
<ul> <li>・地形・都市形成・土地利用および地盤災害の関係について理解する。(AL①, AL②)</li> <li>第04回</li> <li>社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (西田 孝弘) ・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②, AL⑤) 【目標】社会インフラの役割や状況を理解する。 ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる。(AL②, AL⑥) ・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。</li> <li>第05回</li> <li>生本構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理 (冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。・構造物設計の基本的な概念についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。(AL①)</li> </ul>			・地盤工学・地盤工学	学への入り口とし 学の基礎として、	て,土木工学における地盤の位置づけを学 十の性質や地盤の成り立ちについての基礎	ぶ. を理解する.		
第04回 社会インフラのイメージと実際、社会インフラのイメージと実際 (西田 孝弘) ・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②、AL⑤) 【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する。 ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる。(AL②、AL⑥) ・ブレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のきなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の機持管理に関する基本的な考え方について理解する。【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。(AL①)			・地形・	都市形成・土地利				
・社会インフラは人々の生命や生活を守る重要な要素の一つであるが、そのイメージはさまである。これに関連して、社会インフラ構造物および関連分野が置かれている状況を概説す(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②, AL⑤) 【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する。 ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる。(AL②, AL⑤) ・プレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理(富永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。(AL①)		第04回			実際、社会インフラのイメージと実際 (ア	町田 孝弘)		
(AL①) ・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる(AL②、AL⑤) 【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する。 ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる。(AL②、AL⑥) ・プレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する。(AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする。  第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理 (冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のきなった事故事例、被災事例などについて説明を行う。・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。(AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する。 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。(AL①)		3/4 2 2 1	<ul><li>社会イン</li></ul>	ンフラは人々の生	命や生活を守る重要な要素の一つであるが、	, そのイメージはさまざま		
・グループに分かれて、身の回りの社会インフラに対し、その利点(便益)と課題を調べる (AL②、AL⑤) 【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する. ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる. (AL②、AL⑤) ・プレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する. (AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする. 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理 (冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のきなった事故事例、被災事例などについて説明を行う. 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する. (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する. ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について理解する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)				これに関連して、	社会インフラ構造物および関連分野が置か	れている状況を概説する.		
【目標】 社会インフラの役割や状況を理解する. ・各自調べてきた内容をグループ内で討議し、まとめる. (AL②, AL⑤) ・プレゼンテーションやディベート等、意見交換の方法論について概説する. (AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする. 第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理 (冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展のとなった事故事例、被災事例などについて説明を行う. ・構造物設計の基本的な概念について解説を行う. 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する. (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する. ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)			・グルー		の回りの社会インフラに対し,その利点(	便益)と課題を調べる.		
・プレゼンテーションやディベート等,意見交換の方法論について概説する. (AL①) 【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して,相手との対話の方法をする. 第05回 土木構造物の発達とその歴史,土木構造物の維持管理 (冨永 知徳)・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて,その発展の歴史,および,その発展のとなった事故事例,被災事例などについて説明を行う.・構造物設計の基本的な概念について解説を行う. 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する. (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する.・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)			【目標】	社会インフラの行				
【目標】 グループディスカッションや意見交換の方法を理解して、相手との対話の方法をする. 第05回								
第05回 土木構造物の発達とその歴史、土木構造物の維持管理 (冨永 知徳) ・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展の となった事故事例、被災事例などについて説明を行う。 ・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。 (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。 ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する。 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。 (AL①)			【目標】					
・主要な土木構造物である橋梁やトンネルについて、その発展の歴史、および、その発展の となった事故事例、被災事例などについて説明を行う。 ・構造物設計の基本的な概念について解説を行う。 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する。 (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する。 ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する。 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する。 (AL①)		第05回	, -	勿の発達とその歴	中 十木構造物の維持管理 (寛永 知徳)			
・構造物設計の基本的な概念について解説を行う. 【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する. (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する. ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)		NA TOOL	<ul><li>主要な一</li></ul>	土木構造物である	橋梁やトンネルについて、その発展の歴史.	, および, その発展の契機		
【目標】 構造物の安全性と構造設計についての基本的な考え方について理解する. (AL①) ・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する. ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)			となった! ・構造物!	事故事例,被災事 設計の基本的な棚	例などについて説明を行う. 念について解説を行う			
・橋梁を中心とした土木構造物の変状事例について紹介する. ・土木構造物の維持管理に関する基本的な考え方について説明する. 【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)			【目標】			ヽて理解する.		
【目標】 構造物の現状と維持管理についての基本的な考え方について理解する. (AL①)			• 橋梁を「					
$(\bar{AL} \mathbb{Q})$						で理解する		
第06回 リモートセンシング・気候変動対応策と環境工学 (マハパトラ ケダーナッシュ)			(AL(1))					
		第06回				ダーナッシュ)		
・リモートセンシング及び気候変動対応策について解説する。 ・静岡県内の事例を通し、土木工学における環境工学について理解を深める.			・静岡県	内の事例を通し,	土木工学における環境工学について理解を			
【目標】 リモートセンシング及び気候変動対応策と環境工学の役割について理解する. (AL①)				リモートセンシン	<ul><li>グ及び気候変動対応策と環境工学の役割に</li></ul>	こついて理解する.		
(ILW)			(ILU)					

	第07回	地域課題と社会基盤(松本 美紀) ・防災や減災、地球温暖化、少子高齢化などの地域課題に対して建設行政がこれまで果たしてきた役割と最近の動向について、地域事例をもとに解説する. 【目標】社会問題や社会構造の変容との関係から、社会資本整備事業について理解を深める. (AL①)
	第08回	都市と交通 (鈴木 一史) ・私たちの移動の歴史を踏まえ,都市や地域における交通の役割と現状課題を概説する. ・海外の最新事例も紹介しつつ,新しい時代に相応しい都市交通のデザイン手法を概説する. 【目標】都市における交通の重要性を理解し,地域の交通課題を認識できるようになる.
	第09回	(AL(1)) 海岸工学の概要 (居波 智也) ・海岸利用を工学的な観点から解説する. ・波浪の発生要因や種類, くわえて海岸地形の成り立ちを解説する. ・海洋エネルギーに関して国内外の事例と共に解説する. 【目標】海岸工学を学ぶことによって広い視野を身に着け, 各自がオリジナリティあふれる哲学感を育む.
	第10回	(AL①) 地域における土木工学の役割りと課題-1 (土木工学科教員) ・地域において、土木工学がどのような役割を担い、また現在、どのような課題を有しているのかについて、地域における実際の現場における実務上の課題を元に理解を深める。 ・学外における現場視察や実務従事者との意見交換会等の実施を予定(時間割上とは別日に設定) 【目標】 地域における土木工学の役割りと課題について、実際の現場視察によって理解を深める。
	第11回	(AL①, AL②, AL③) 地域における土木工学の役割りと課題-2 (土木工学科教員) ・地域において、土木工学がどのような役割を担い、また現在、どのような課題を有しているのかについて、地域における実際の現場における実務上の課題を元に理解を深める。 ・学外における現場視察や実務従事者との意見交換会等の実施を予定(時間割上とは別日に設定) 【目標】 地域における土木工学の役割りと課題について、実際の現場視察によって理解を深める。
	第12回	(AL①, AL②, AL③) 地域における土木工学の役割りと課題-3 (土木工学科教員) ・地域において、土木工学がどのような役割を担い、また現在、どのような課題を有しているのかについて、地域における実際の現場における実務上の課題を元に理解を深める。 ・学外における現場視察や実務従事者との意見交換会等の実施を予定(時間割上とは別日に設定) 【目標】 地域における土木工学の役割りと課題について、実際の現場視察によって理解を深め
	第13回	る. (AL①, AL②, AL③) 地域における土木工学の役割りと課題-4 (土木工学科教員) ・地域において、土木工学がどのような役割を担い、また現在、どのような課題を有しているのかについて、地域における実際の現場における実務上の課題を元に理解を深める。 ・学外における現場視察や実務従事者との意見交換会等の実施を予定(時間割上とは別日に設定) 【目標】 地域における土木工学の役割りと課題について、実際の現場視察によって理解を深める。
	第14回	(AL①, AL②, AL③) 地域における土木工学の役割りと課題-5 (土木工学科教員) ・地域において、土木工学がどのような役割を担い、また現在、どのような課題を有しているのかについて、地域における実際の現場における実務上の課題を元に理解を深める。 ・学外における現場視察や実務従事者との意見交換会等の実施を予定(時間割上とは別日に設定) 【目標】 地域における土木工学の役割りと課題について、実際の現場視察によって理解を深める。
	第15回	(AL①, AL②, AL③) 土木技術者としての倫理 (中澤 博志) ・土木工学における技術者倫理について概説する。 ・土木工学に関する倫理的検討事案を紹介する。 ・少人数の班に分かれて、土木工学における倫理についてディスカッションする。 ・各班の検討内容を発表し、全員で検討する。 ・全15回を対象としてレポートを課し、成績を評価する。 【目標】 土木工学における倫理について、事例を元にグループディスカッションを行い、その問題点について理解する。グループディスカッションでの検討内容を発表し、全員で検討することで、グループでの話し合いや他班の意見を参考にしながら、課題や解決法を見つけ出していく能力を養う。 (AL①, AL②, AL③, AL④, AL⑤, AL⑥)
授業形態	・適宜,資料 ・学外視察に	ともなう観測活動
	・グループデアクティブラ	イスカッションと総合討議 ーニング:①15回, ②7回, ③4回, ④1回, ⑤2回, ⑥1回
達成目標	土木工学の 本学土木工学 土木工学学 察によって理 土木工学にお	概要および各分野の特色などを理解することができる. 科の学びの特色を理解することができる. 科の学びの特色を理解することができる. が、実社会においてどのような役割を有し、どのようにまちづくりに寄与しているかを、学外視解することができる. ける技術者倫理を理解することができる. スカッションにより、課題発見・課題解決能力を向上させることができる.
評価方法・フィー ドバック		って評価する. 原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する.
評価基準	秀(90点以上)	,優(89~80点),良(79~70点),可(69~60点),不可(59点以下)
1	1	

教科書・参考書	【教科書】 1)「公務員試験 技術系 新スーパー過去問ゼミ 土木」丸山大介著,実務教育出版
履修条件	無し.
履修上の注意	・原則として全回出席すること. ・やむを得ず欠席する場合には、必ず担当回の教員に申し出ること. ・学外視察の実施日は、スケジュール調整後、改めて通知致します. 正規の授業時間帯とは異なる時間帯で実施することとなりますのでご注意下さい.
準備学習と課題の 内容	・最終第15回にレポート課題を示します. (毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度)・期日等詳細は当日説明致しますので、第15回担当教員まで必ず期日までに提出すること.
ディプロマポリ シーとの関連割合 (必須)	知識·理解:30%, 思考·判断:30%, 関心·意欲:20%, 態度:10%, 技能·表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	